

人口減少・高齢化の進んだ集落等を対象とした「日常生活に関する
アンケート調査」の集計結果(中間報告):概要

1. 65歳以上の高齢者人口が50%以上の集落を含む一定の地区を全国から20地区選定し、各地区において住民参加の集落づくりワークショップを開催するとともに、各地区在住の世帯主を対象にした「日常生活に関するアンケート調査」を実施した。現在詳細集計中の本アンケート調査からは、集落での生活についておおむね次のような姿がみえてくる。
2. これらの地区では、高齢者の単独世帯が25%、高齢者の夫婦のみ世帯が29%であり、過半の世帯で収入の第一を公的年金であるとする一方で、支出の第一は食料費であるとする世帯が最も多い。
3. 生活のうえで困っていることとしては、通院、救急医療、買い物など生活関連サービスに関することが多く、次いで農林産物への獣害や雇用機会の不足といった経済活動に関することをあげる世帯主が多かった。
4. 一方で、9割近くの世帯主が現在地での暮らしの維持・継続を望んでいる。
5. こうした地区での住民の暮らしを守るために生活関連サービス提供をどのように維持していくか、地区居住を中長期的に持続するために経済活力をいかにして確保するかが課題になっている。

<調査の概要>

調査対象：65歳以上の高齢者が人口の50%以上の集落¹を含む
地区に居住する世帯主（全国から20地区選定）

調査期間：平成20年8月～9月

調査方法：各自治体・町会を通じた直接配布・回収（一部郵送）

対象世帯数：2,642世帯

回答世帯数：1,849世帯²

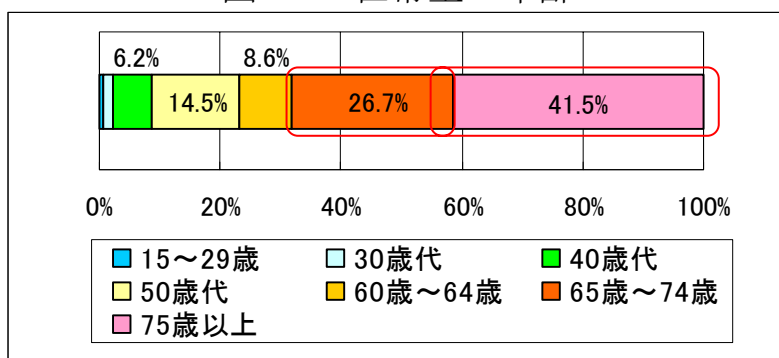
有効回答率：70.0%

<結果の概要>

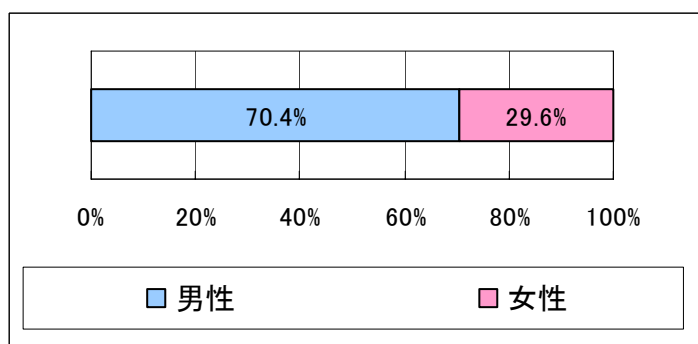
1 回答者（世帯主）の属性

- ・世帯主の約4割が75歳以上、約7割が65歳以上。<図-1>
- ・世帯主の約7割が男性、約3割が女性。<図-2>

<図-1 世帯主の年齢>



<図-2 世帯主の性別>



¹ 集落の定義は、「平成18年度 国土形成計画策定のための集落の状況に関する現況把握調査」（総務省・国土交通省）による。

² 各地区の世帯数に差異があるためアンケート回収数に差異がある。詳細は別紙参照のこと。

2 世帯構成

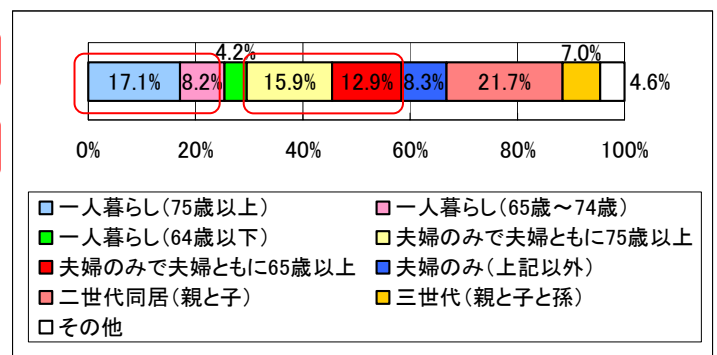
高齢者のみ世帯が半数以上。子どもが遠方に住んでいる世帯も6割以上。

- ・ 回答者の世帯構成をみると、「一人暮らし」の65歳以上の高齢者世帯が約25%、夫婦二人だけの世帯で、かつ、夫婦ともに65歳以上の高齢者の世帯が約29%であり、65歳以上の高齢者だけで構成される世帯が半数以上を占める。〈表-1、図-3〉
- ・ また、15歳以上の子との同居・子の独立状況をみると、6割以上の世帯が、「(15歳以上の)子どもは全て独立し、全て遠方に住んでいる」状況にあるとしている。〈図-4〉

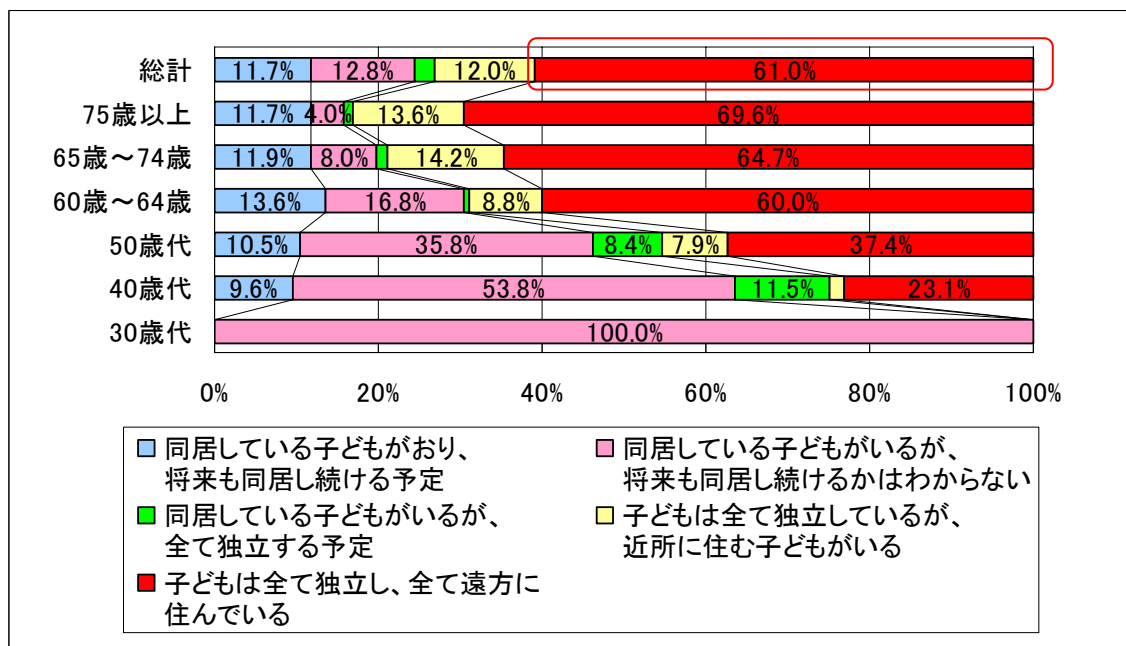
〈表-1 世帯構成〉

| | 回答数 | 割合 |
|-----------------|-------|-------|
| 一人暮らし(75歳以上) | 310 | 17.1% |
| 一人暮らし(65～74歳) | 149 | 8.2% |
| 一人暮らし(64歳以下) | 76 | 4.2% |
| 夫婦のみで夫婦ともに75歳以上 | 288 | 15.9% |
| 夫婦のみで夫婦ともに65歳以上 | 234 | 12.9% |
| 夫婦のみ(上記以外) | 151 | 8.3% |
| 二世帯同居(親と子) | 392 | 21.7% |
| 三世帯(親と子と孫) | 126 | 7.0% |
| その他 | 83 | 4.6% |
| 有効回答 | 1,809 | |
| 無回答 | 40 | |

〈図-3 世帯構成〉



〈図-4 世帯主の年齢別にみた15歳以上の子との同居・子の独立状況〉



3 世帯主の職業

世帯主の約6割が年金受給者。

- 世帯主の職業（「年金受給者」の回答選択肢あり。）を複数回答形式で尋ねる問いでは、「年金受給者」であるとする世帯主が最も多く約6割を占める（「農林漁業者」等との複数回答者を含む。）。次いで、「農林漁業者」であるとする世帯主が多く、約4分の1を占める。（その内訳をみると、「農林漁業者」とのみ回答した世帯主は約13%、「農林漁業者」であり、かつ、「年金受給者」であるとする世帯主は約9%である。）次いで、「会社員」が約12%、「自営業者（農林漁業者以外）」が約9%の順である（いずれも兼業含む。）。<表-2>

<表-2 世帯主の職業>

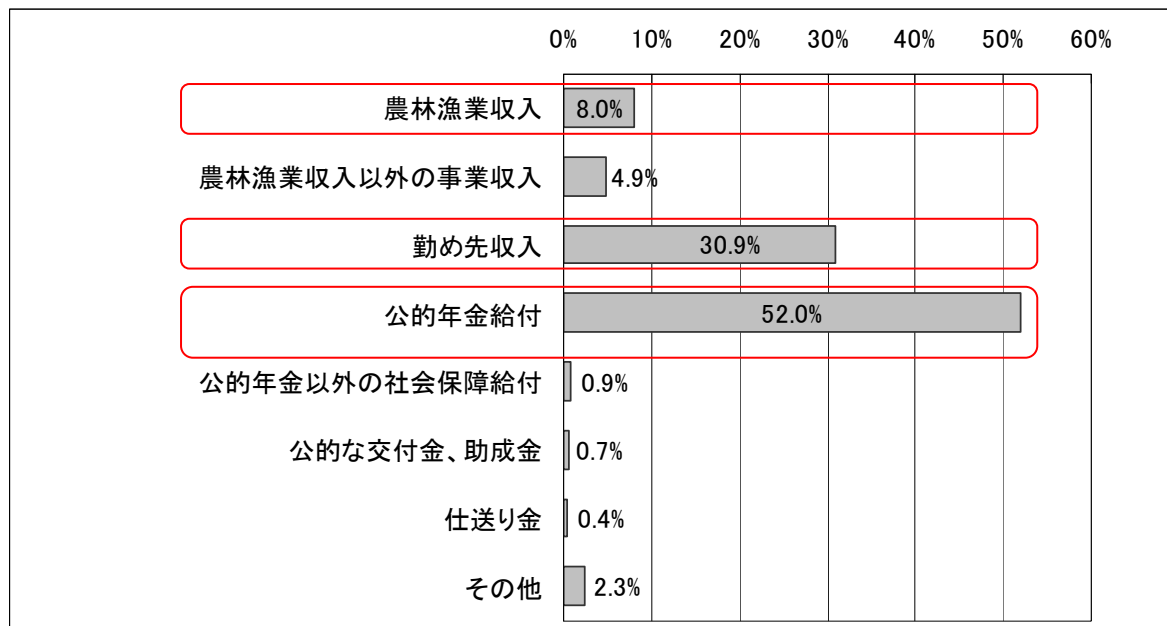
| | 回答者数 | 割合 |
|-------------------|-------|-------|
| 農林漁業者 | 445 | 24.8% |
| うち、単独回答 | 235 | 13.1% |
| うち、年金受給者 | 157 | 8.8% |
| 自営業者(農林漁業者以外) | 154 | 8.6% |
| 会社員 | 217 | 12.1% |
| 公務員 | 42 | 2.3% |
| 団体・組合職員(農協、農林組合等) | 45 | 2.5% |
| 年金受給者 | 1,027 | 57.2% |
| うち、単独回答 | 813 | 45.3% |
| 学生 | 0 | 0.0% |
| その他 | 161 | 9.0% |
| 有効回答(回答者数) | 1,794 | |
| 無回答 | 55 | |

4 家計の状況

約半数の世帯で収入の第一位は公的年金。

- 世帯全体の収入のうち一番多い収入が「公的年金給付」であるとする世帯が約5割、次いで、「勤め先収入」であるとする世帯が約3割、「農林漁業収入」であるとする世帯は1割に満たない。〈図 - 5〉

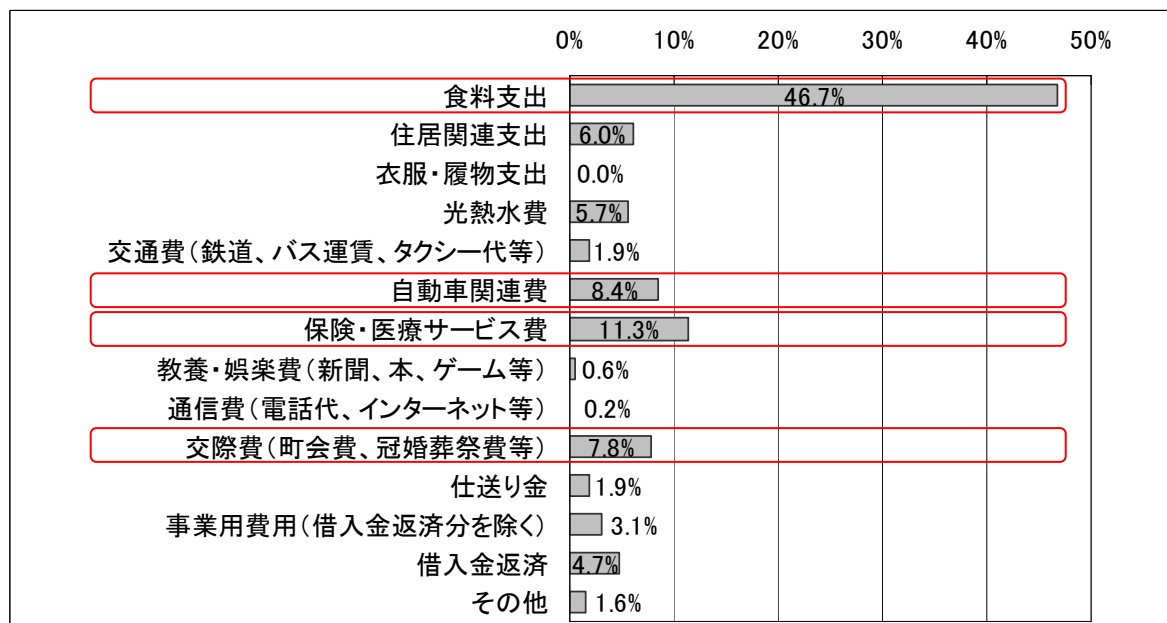
〈図 - 5 世帯全体の収入のうち一番多い収入〉



- 世帯全体の支出のうち一番多い支出が「食料支出」であるとする世帯が約5割、次いで、「保険・医療サービス費」、「自動車関連費」、「交際費（町会費、冠婚葬祭費等）」であるとする世帯が各約1割である。

〈図 - 6〉

〈図 - 6 世帯全体の支出のうち一番多い支出〉



5 生活の状況

社会活動や家族等との会話の時間が比較的長い。

- 夏の平日に各活動へ平均的に何時間費やしているかをたずねる問いでは、「ボランティア、地域活動など社会活動」や「家族・近所の人、友達との会話」に比較的長い時間を費やしている世帯主がいる一方で、「休息」や「病院に行く、療養」に2時間以上を費やしている世帯主がいることがわかる。〈表 - 3〉

〈表 - 3 各活動の平均時間（夏の平日）〉

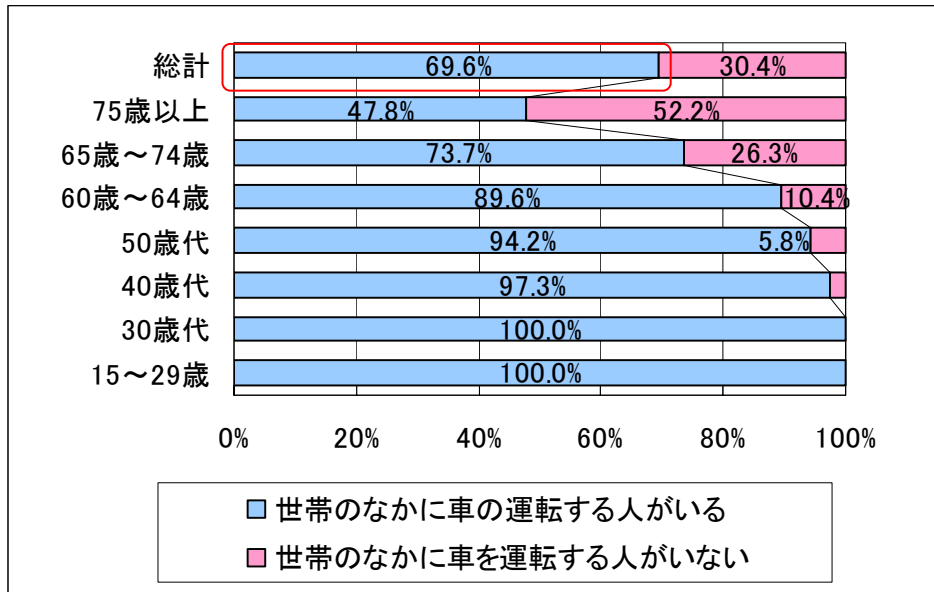
| | (平日) 時間 分 | 有効 回答数 |
|---------------------|--------------|-----------|
| 睡眠 | 7:21 | 1,471 |
| 食事 | 1:31 | 1,383 |
| 仕事 | 6:14 | 1,212 |
| 通勤 | 0:53 | 425 |
| 炊事、洗濯、買い物、介護などの家事 | 1:43 | 643 |
| ボランティア、地域活動など社会活動 | 0:59 | 249 |
| 家族・近所の人・友達との会話 | 1:21 | 659 |
| 趣味、遊び、散歩、スポーツ | 1:35 | 565 |
| テレビをみる、ラジオをきく、本を読む等 | 3:03 | 1,281 |
| 休息 | 2:09 | 859 |
| 病院に行く、療養 | 2:19 | 372 |
| その他 | 2:28 | 300 |

※本集計は、各活動の平均時間を示したものであるので、
これらの合計時間が24時間になることはない。

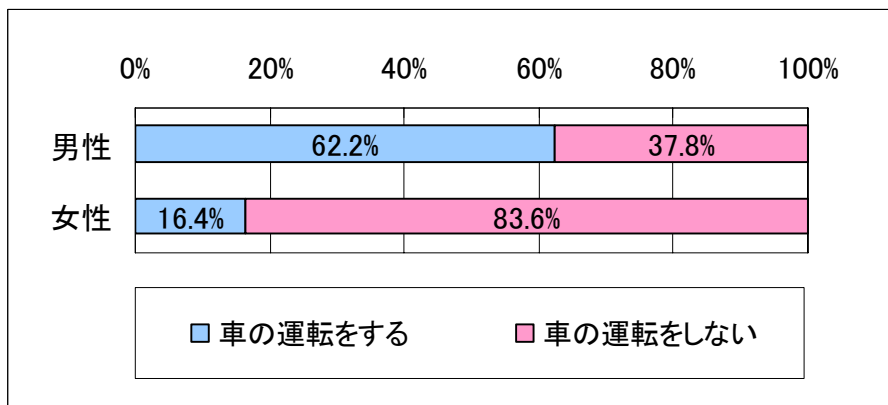
一人暮らし女性の8割以上は車の運転をしない。

- 世帯のなかに車の運転をする人がいるかをたずねる問いでは、「世帯のなかに車の運転をする人がいる」とする世帯主は約7割である。世帯主が高齢になるほどその割合は減少する。一人暮らし世帯だけを見ると、男性の約6割が車の運転をすると回答している一方で、女性については、その割合は2割に満たない。＜図-7、8＞

＜図-7 「世帯のなかに車の運転をする人がいる」(世帯主年齢別)＞



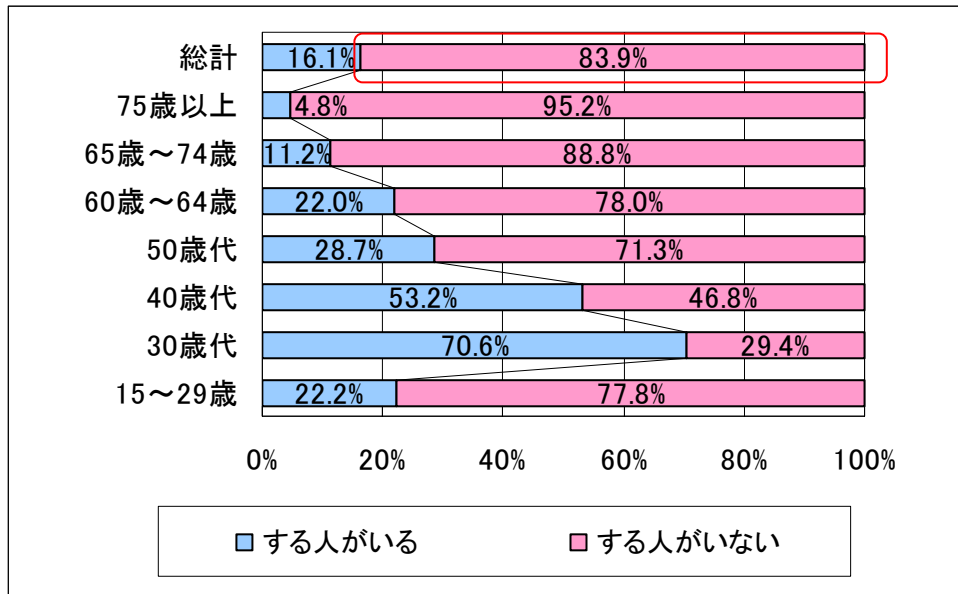
＜図-8 一人暮らし世帯主の車の運転状況 (男女別)＞



インターネットの高齢者世帯への普及は低い。

- 世帯のなかに日常的にインターネットを利用する人がいるかをたずねる問いでは、「世帯のなかに日常的にインターネットを利用する人がいる」とする世帯主は2割に満たない。世帯主が高齢になるほどその割合は減少する。〈図 - 9〉

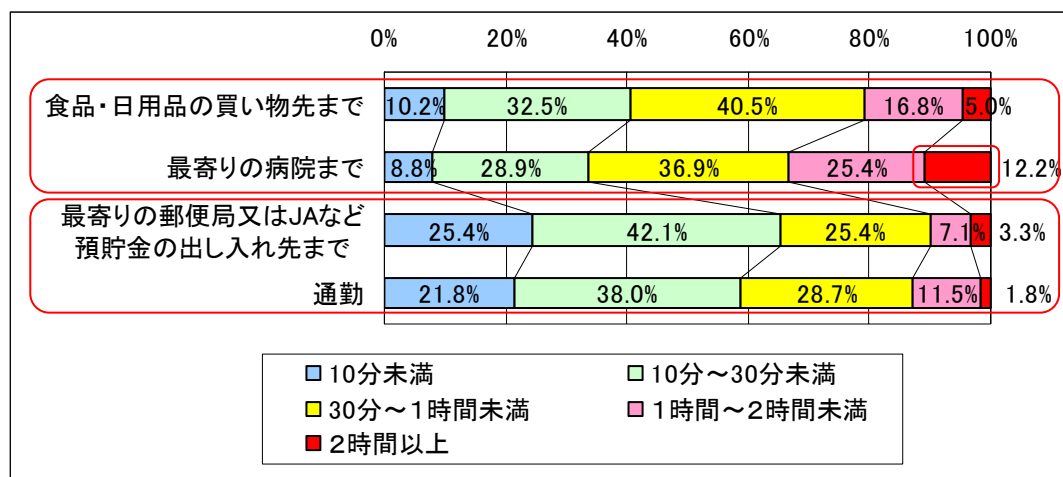
〈図-9 「世帯のなかに日常的にインターネットを利用する人がいる」（世帯主年齢別）〉



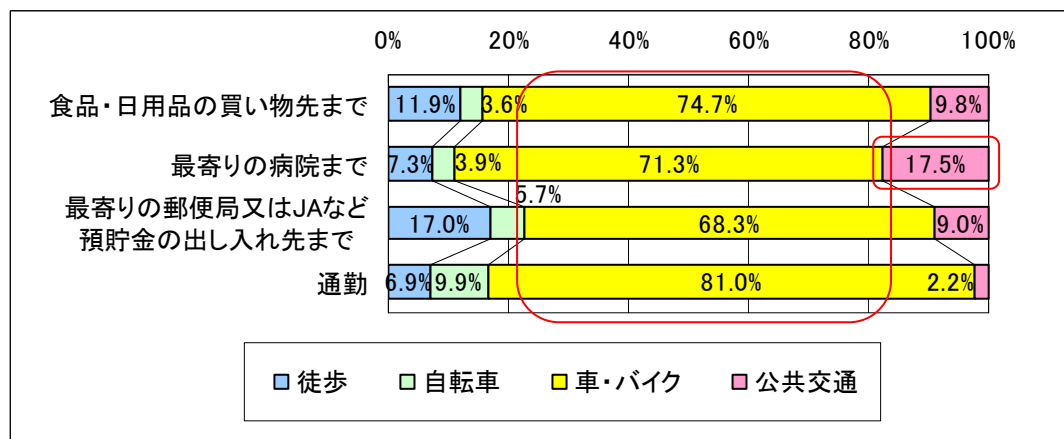
車やバイクが移動手段の大宗を占める。公共交通の利用度は低い。

- 外出先別に（「食品・日用品の買い物先まで」、「最寄りの病院まで」、「最寄りの郵便局又はJAなど預貯金の出し入れ先まで」、「通勤」）、片道にかかる移動時間とその移動手段をたずねる問いでは、「食品・日用品の買い物先まで」や「最寄りの病院まで」の移動時間は、「最寄りの郵便局又はJAなど預貯金の出し入れ先まで」や「通勤」にかかる移動時間と比べて長い傾向がみうけられる。1割を超える世帯主が「最寄りの病院まで」に2時間以上かかるとしている。
- いずれの外出に際しても、その移動手段は「車・バイク」であるとする世帯主が多い。「最寄りの病院まで」の移動手段については、2割近くの世帯主が「公共交通」を利用しているとしており、他の外出に比べて「公共交通」を利用する世帯主が多いことがみてとれる。〈図 - 10、11〉

〈図 - 10 外出先別の片道の移動時間〉



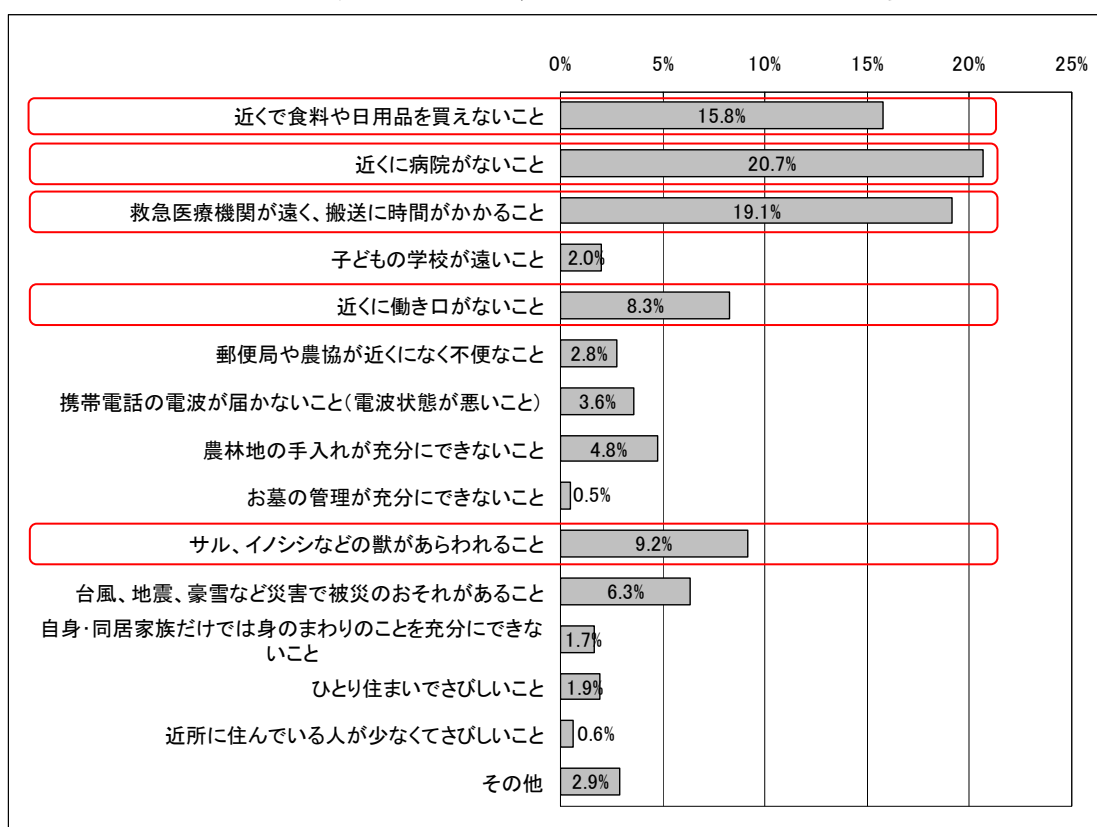
〈図 - 11 外出先別の移動手段〉



6 生活する上で困っていること・不安なこと

困っていること・不安のトップは医療関係。次いで、買い物、獣害、雇用。

- 生活する上で困っていること・不安なことをたずねる問いでは、「近くに病院がないこと」(21%)、「救急医療機関が遠く搬送に時間がかかること」(19%)、「近くで食料や日用品が買えないこと」(16%)といった生活関連サービスにかかることを一番困っていること・不安なことであるとする世帯主が多く、次いで、「サル、イノシシなどの獣があらわれること」(9%)、「近くに働き口がないこと」(8%)といった経済活動に関することであるとする世帯主が多い。〈図 - 12〉
 〈図 - 12 生活する上で一番困っていること・不安なこと〉



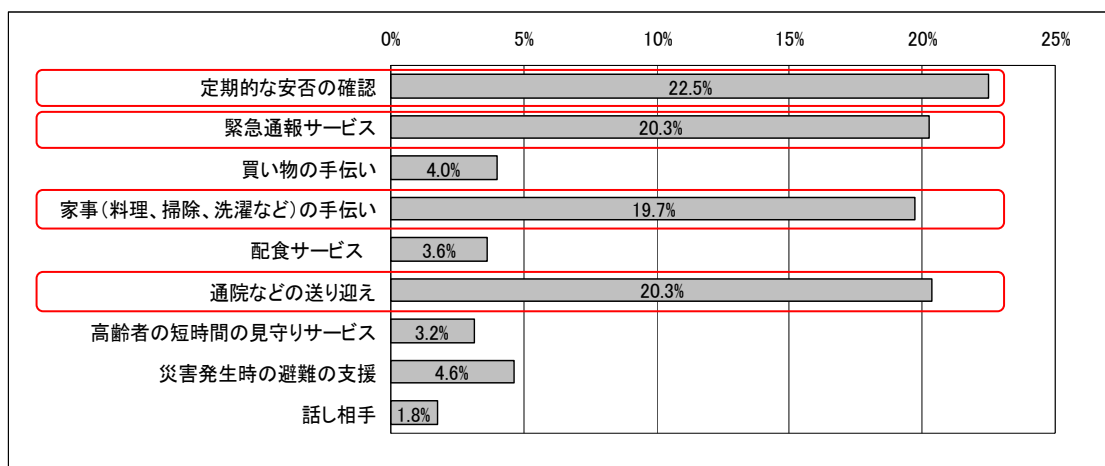
7 日常生活が不自由になったときに必要なサービス

いざというときに必要なサービスのトップは定期的な安否確認。

- 世帯構成員が病気、高齢になるなどして、日常生活が不自由になったとき、一番必要なサービスは何かをたずねる問いでは、「定期的な安否の確認」(23%) であるとする世帯主が最も多く、次いで、「緊急通報サービス」(20%)、「通院などの送り迎え」(20%)、「家事(料理、掃除、洗濯など)の手伝い」(20%) であるとする世帯主が多い。

図 - 13 >

< 図 - 13 日常生活が不自由になったときに一番必要なサービス >



8 今後の居住意向について

「将来も住み続けたい」が約9割。しかし、15～29歳の若年世帯主では約4割が移転を希望。

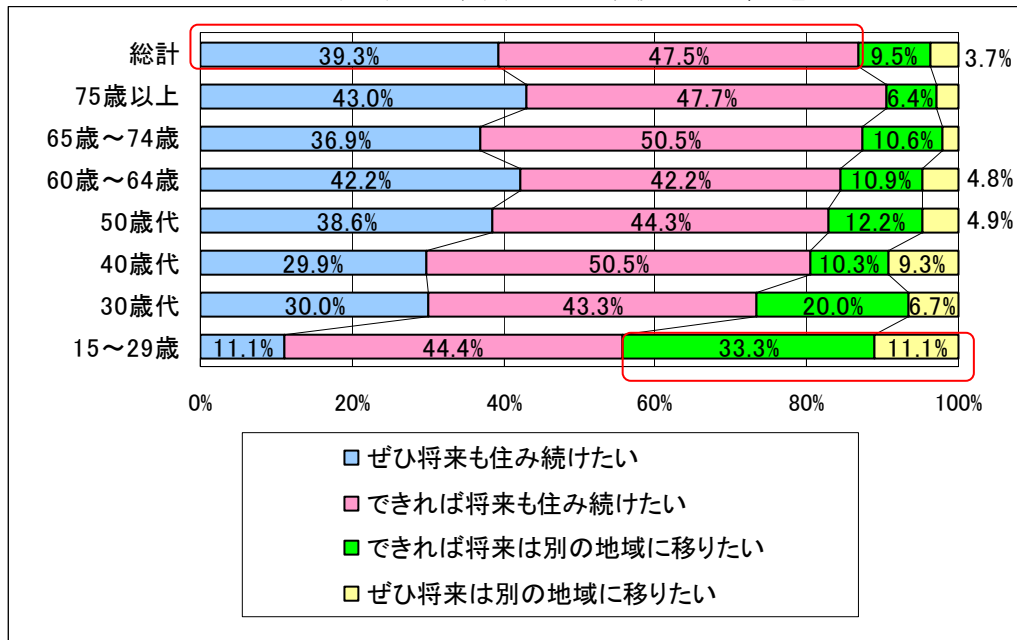
- 今後の居住意向をたずねる問いでは、9割近くの世帯主が、現在地に「ぜひ将来も住み続けたい」、又は「できれば将来も住み続けたい」と回答している。世帯主の年代別にみると、年齢が若くなるほど移転意向が強い傾向があり、15～29歳では約4割が移転を望んでいる。

<図 - 14>

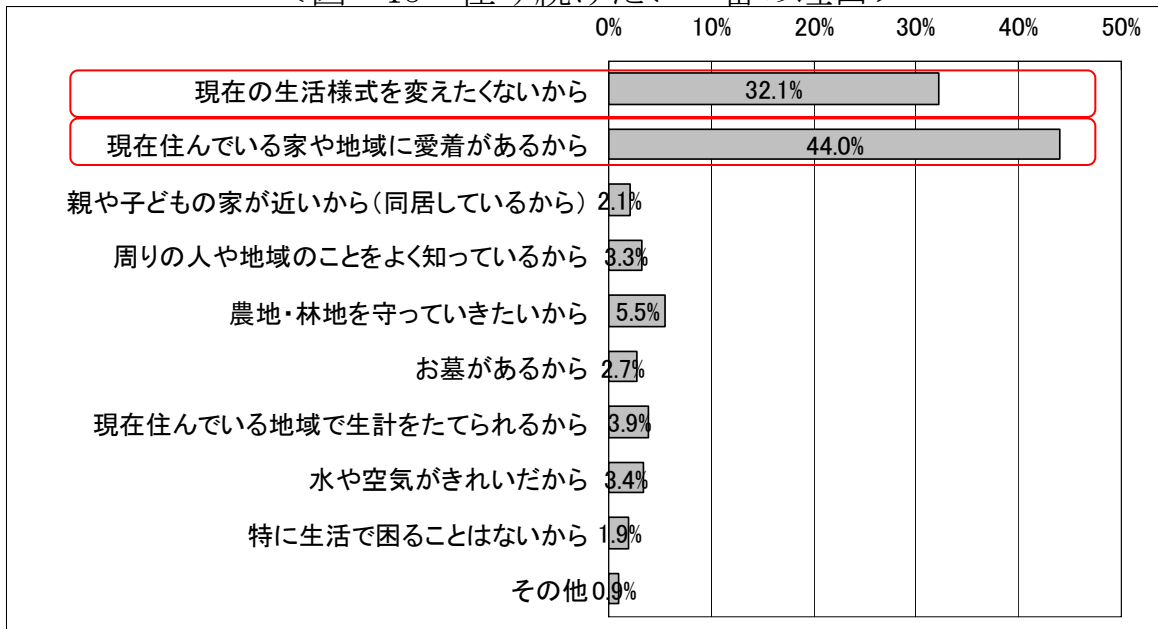
- 現在地に住み続けたいと回答した世帯主に対して、住み続けたい理由をたずねる問いでは、「現在住んでいる家や地域に愛着があるから」(44%)を一番の理由とする世帯主が最も多く、次いで「現在の生活様式を変えたくないから」(32%)を一番の理由とする世帯主が多い。

<図 - 15>

<図 - 14 世帯主年齢別の今後の居住意向>



<図 - 15 住み続けたい一番の理由>

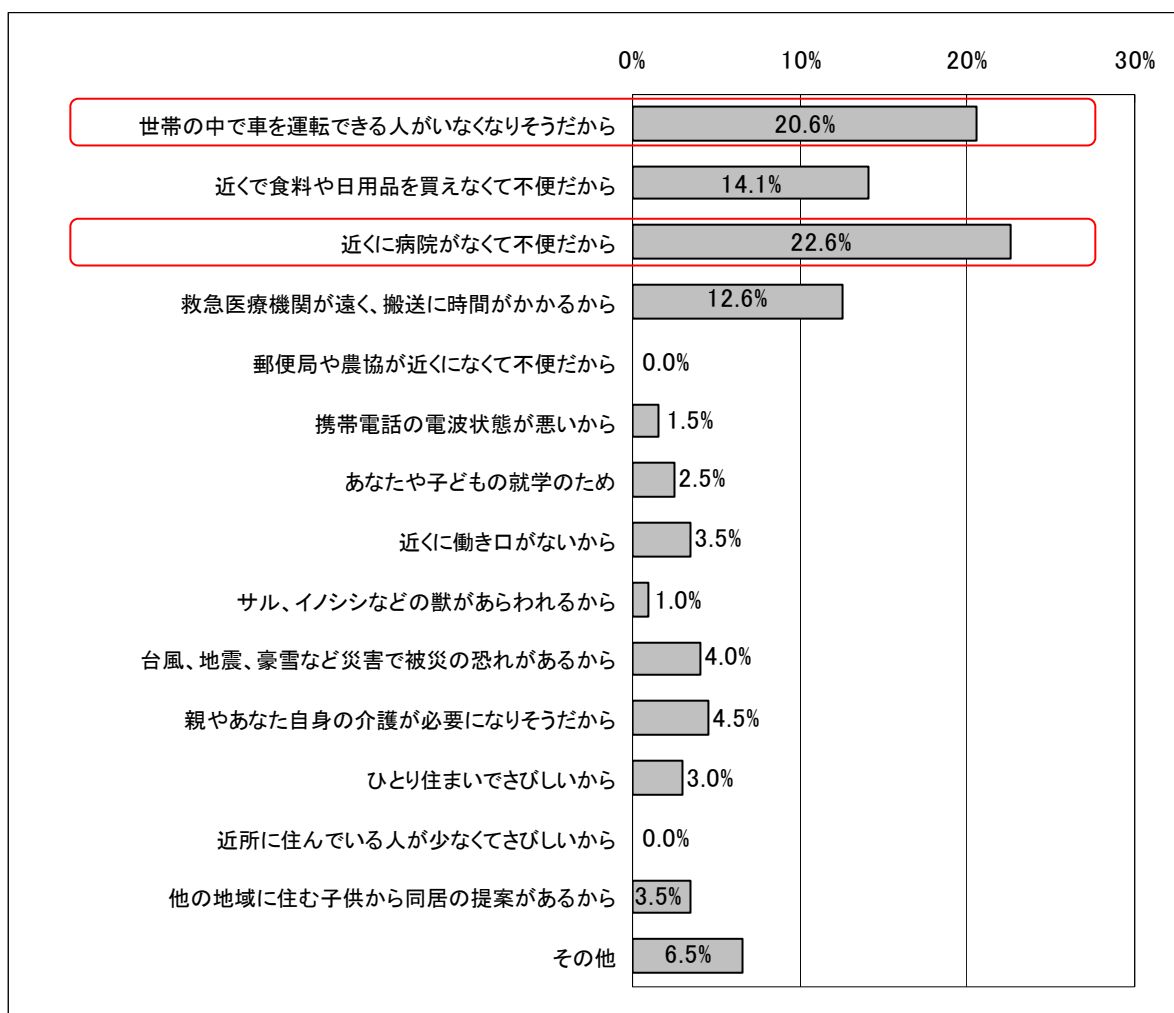


別の地域に移りたい理由は、病院の立地や移動手段への不安。

- 別の地域に移りたいと回答した世帯主に、移りたい理由をたずねる問いでは、「近くに病院がなくて不便だから」(23%)を一番の理由とする世帯主が最も多く、次いで「世帯の中で車を運転できる人がいなくなりそうだから」(21%)を一番の理由とする世帯主が多い。

< 図 - 16 >

< 図 - 16 別の地域へ移りたい一番の理由 >



■ アンケート実施地区及び回収数

| No | 都道府県 | 市町村 | 集落名 | 回収数 |
|----|------|--------------------|---|-------|
| 1 | 北海道 | なかがわまち 中川町 | きょうわ やすかわ やすかわ やすかわ やすかわ とよさと 共和、安川、安川一、安川二、安川三、豊里、 さく 佐久 | 66 |
| 2 | 岩手 | いわいずみちよう 岩泉町 | おおさわ あさない おおわたりおうぎ さわ おおひろ からち 大沢、浅内、大渡、扇の沢、大広、唐地、 たき うえ かわだい 滝の上、川代 | 143 |
| 3 | 秋田県 | よこてし 横手市 | たき した となみ 滝ノ下、戸波 | 92 |
| 4 | 福島県 | かねやままち 金山町 | よこた つちくら にしぶ やまいり こすがわ 横田、土倉、西部、山入二、越川 | 115 |
| 5 | 新潟県 | とおかまちし 十日町市 | はちだいいち はちだいに なかて なかだいらみようかやま 鉢第一、鉢第二、中手、中平、名ヶ山 | 114 |
| 6 | 新潟県 | さとし 佐渡市 | こた おおくら やがら せき いかうら いわやくち 小田、大倉、矢柄、関、五十浦、岩谷口 | 98 |
| 7 | 山梨県 | みのぶ ちよう 身延町 | ねっこ 根子 | 33 |
| 8 | 長野県 | あなんちよう 阿南町 | みやざわ わごうかみ てらむら きそばた ほんむら かみわごう 宮沢、和合上、寺村、木曾畑、本村、上和合、 おしのた たしろ ころがわすずがさわ ひよし おびかわ はばがわ 押ノ田、田代、心川、鈴ヶ沢、日吉、帯川、巾川 | 113 |
| 9 | 岐阜県 | もとすし 本巣市 | ながしま のうごう 長島、能郷 | 29 |
| 10 | 三重県 | くまのし 熊野市 | いくせいちよう 育生町 | 125 |
| 11 | 京都府 | いねちよう 伊根町 | こしやま、たきね ゆのやま なる すがの つつかわ 越山、滝根、湯之山、成、菅野、筒川 | 95 |
| 12 | 和歌山県 | ひだかがわちよう 日高川町 | どういめばら みやだいらどいあきば なかむら つきたち たきのうえ 土居梅原、宮平、土居秋葉、中村、朔日、滝ノ上、 にしのかわ かみたかの しもたかの しもちようし かみちようし しもいた 西ノ川、上高野、下高野、下長志、上長志、下板、 かみいた しもこやぶがわ かみこやぶがわ 上板、下小藪川、上小藪川 | 128 |
| 13 | 和歌山県 | すさみ ちよう すさみ町 | つづら おおたに おいがわ くりがいと なか なかの にしのかわ 防己、大谷、追川、栗垣内、中、中野、西野川、 ねくら ふかだに 根倉、深谷 | 147 |
| 14 | 島根県 | うなんし 雲南市 | かみとね しもとね みやうち あさんばらふくだ からくり ごう 上刀根、下刀根、宮内、朝原、福田、柄栗、郷、 おばら なり たがみ さかえまちなかまち しんまち もとかみまち 小原、成、田上、栄町、中町、新町、元上町、 かみまち はた 上町、タンスイン波多 | 130 |
| 15 | 岡山県 | たかはしし 高梁市 | ほりい まえぎた うしろぎた かみごう しもごうみやがわ てんのううすだに 堀井、前北、後北、上郷、下郷宮側、天王臼谷、 こばやし こごことおりまき かのの こしやま やまぞえ 小林、小迫通楨、金野、越山、山添 | 113 |
| 16 | 高知県 | すさき し 須崎市 | くつう 久通 | 27 |
| 17 | 愛媛県 | くまこうげんちよう 久万高原町 | ごうかく ほんたに こむら おおなる みようがかみ みようがしも こみ 郷角、本谷、小村、大成、名荷上、名荷下、古味、 すぎよう なかくぼ よこの たかの いぶし 菅行、中久保、横野、高野、猪伏 | 82 |
| 18 | 熊本県 | なごみまち 和水町 | こが ほんむら まえの えのきばる 古閑、本村、前野、榎原 | 66 |
| 19 | 長崎県 | ごとう し 五島市 | こといし 琴石 | 19 |
| 20 | 鹿児島県 | みなみおおすみちよう 南大隅町 | へつかひがし へつかにし なかむら なかごう うちづめ どうがはら 辺塚東、辺塚西、中村、中郷、打詰、洞ヶ原 | 114 |
| | | | | 1,849 |

■ 対象地区の所在する市町村

